

八笑入三編追加

朝日

下

^ 13

3209

7



村田



大正十一年三月五日

門 13
號 3209
卷 7

迎春會

昭和十年
七月五日
東京

花八笑人三編追加下巻

龍亭鯉犬著

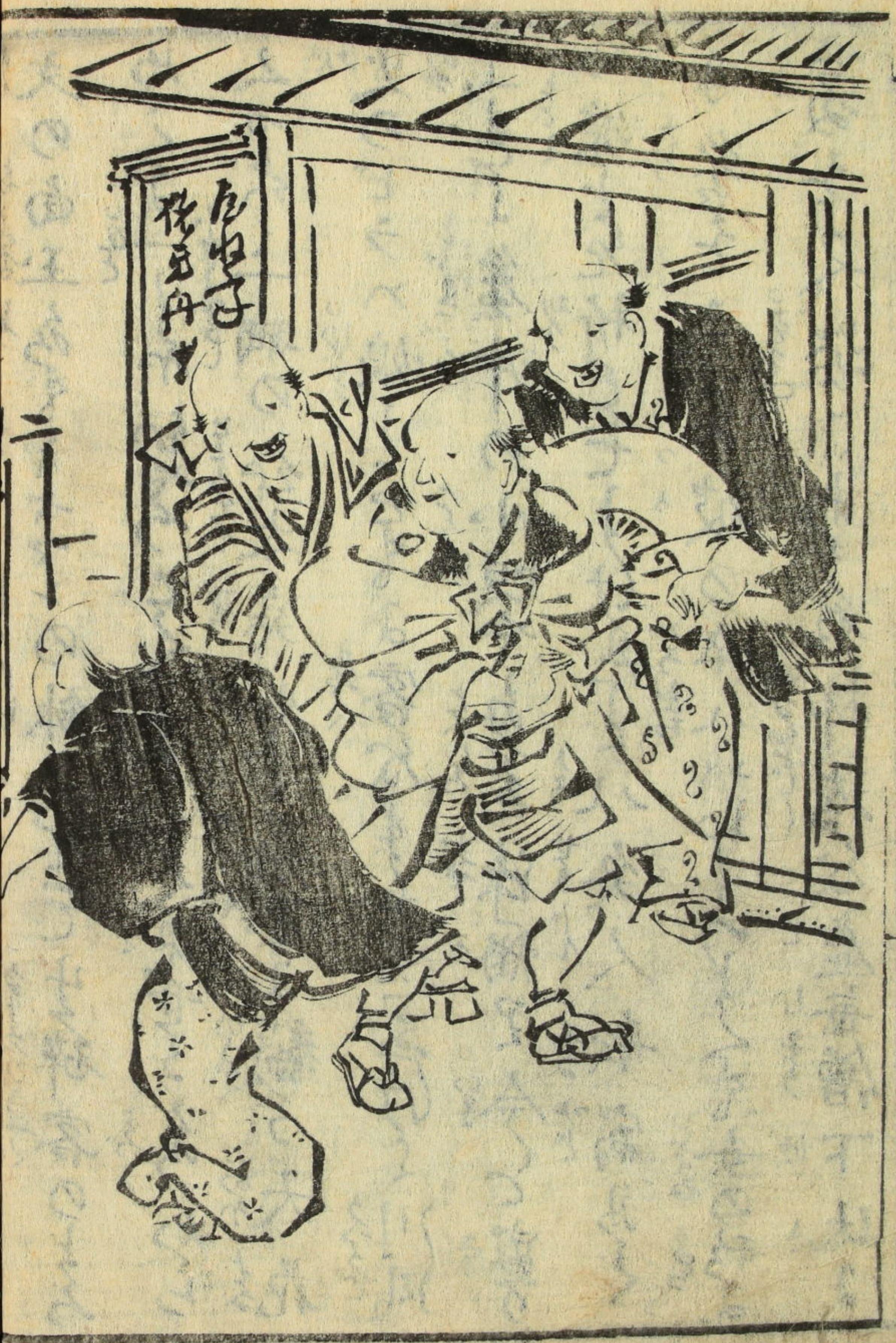
何人の口もとてとみや西国へ其の夕を来て見
入相の種よ花ぞ咲たりと六つ分たがらも
はちや登杖分より種この刃せいの茶月を
徳商人あけつらうよとあわねとお振舞中
批把葉湯も徳徳若の婦人耳をいそめ七味
とあがうしの七八五齡湯の個合は替りてとあう四

文の白玉あもギヤマンの鉢よしとて生碎客のよる
めくよ一しやもやうとく涼しく刃存るもから
ムア上晒の公太突出一茶屋は舞う大花
火のビラハ娘ととすも容心まねきふけし川風
上見し炭中の小唄やあまは降福も今と盛り
の涼ど花折ととよけと八笑人船宿めく
あまをささあ彼の卒ハハおつとくも女の形よ
さあをう姿よあめ柳橋を虚無僧下駄よ

花八笑人三編追加下巻

二

八
笑
人
三
節
子
力

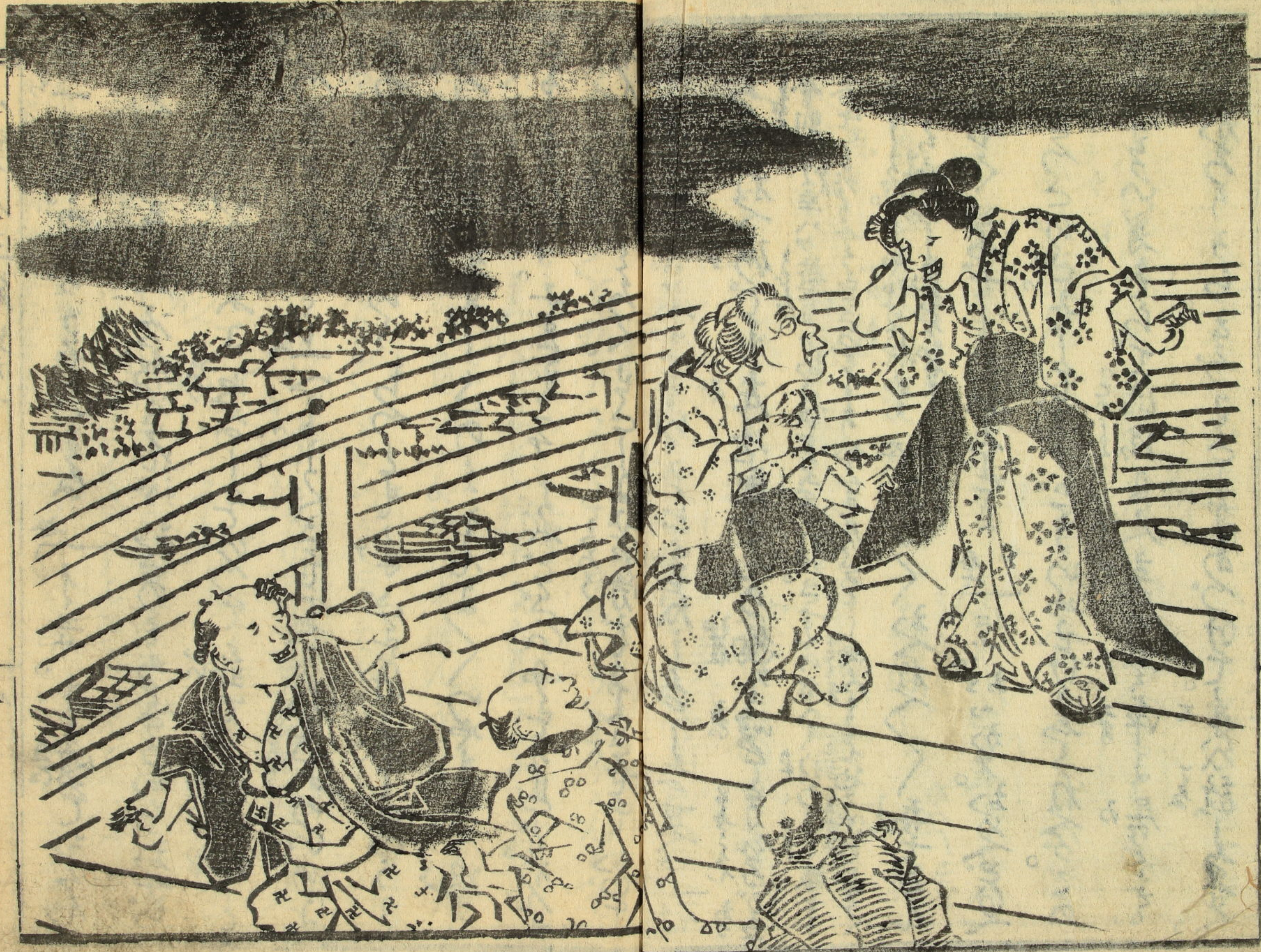


八
笑
人
三
節
子
力

何れも人々のまのり入行してまゝに。まゝぬ顔で見
 物もふとさうて。さうきうら橋の袂よまのり
 居るのよ。卒ハ「エ、あまもつまらわぬんぞ。あんの
 見せどもいゝまゝごころなる事よ。ねがはれて歩むて
 友達の前へげんがうらまゝお同張へぬ
 て早くけへ入るせ。卒ハ「そり。よくねとねたよ
 まる。わハ見を居ても。卒ハ「イヤサよくね
 うちの貴つし世郎と。まゝくもまゝと。六月の敷よ
 卒ハ「そり。まゝと。入るまゝも。さうら。帰るまゝ
 よ。母「うん。あまもつまらわぬんぞ。あんの
 さんよ。言はせて見せて貰う。ハと。まゝも。たうらぬと
 いふ。一やま。まゝと。まゝと。まゝと。あまが子と
 おまが連てけらよ。准がるんといわのら。サア
 次郎。えん。ハと。まゝと。まゝと。まゝと。あまが子と
 ねま。まゝと。まゝと。まゝと。まゝと。あまが子と
 居るも。まゝと。まゝと。まゝと。まゝと。あまが子と
 さの。まゝと。まゝと。まゝと。まゝと。あまが子と
 卒ハ「コウか。えん。わぬんぞ。まゝと。まゝと。まゝと。まゝと。あまが子と

びく尖の尾尾宿る一の繁の毛管糸のこころ
 かまともるんとも名の付ふのねんころらねん
 めんご早い夏分りては并ふが年あはれ
 ナよるころらぬんむせく「まんご年ころら
 邪産ころるとへん是は廣いあ国でナ「後
 西之くも宿のがはてあきまら「あまご五令
 十人居ころらて「邪六よるころのころまも
 西之仲の年あはれと持くは舞り「五りがあはれ

こよらし「アどよどよころら夏分いよ一のせく「ヤ
 ちちさねくはでも左次郎えんの物を「あまご五
 ト 合刺力ハ辛ハが抜首とあまご五ままねば「さすかの卒ハ「持あはれ「眠七う
 舌上とあはれ「かうと「あまご五「かま居ころら「西之くも「あまご五「あまご五
 あつま「ころら「あまご五「あまご五「卒ハ「ころく「あまご五「あまご五
 早くあまご五「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五
 行ささるころら「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五
 子もころら「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五
 泣ちあまご五「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五「あまご五



小野天竺山三郎通五

小野天竺山三郎通五

第一でんげげんぐりりまま 母はは 一い母はは 牛うし 寝ねてるん

るせ入りままきき左さ次じ郎らうんんががああののこころろかららああぢぢ

ぢぢんんああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

あありりととああままののいいままのの取とりりととりりててああのの子こ親おやと

母らも世もあつけさく眼士よあがみワツと二ト身は知しる 母 十 たるせ

おまがてくもあううぬが敵たか 眼七のりてあまう一春生とてあ

公く。とよよのりまやあてくまねら。こまらとまら六母の 母へ

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

あしどあよまね授ら ねまども天卒六卒八分飛と

居て母は川中へ入らせ給宮中へのまらびに公入替るが母もあしどいんまら
むいせうに母をていあしきふふよむひひのちてはいつる母の邪たのてき
かゝううてこのミ もつたひ 川中へ入 「ワイやく移んどんヤアイ」のま
居てうて入る

ヤアイ「まぬけヤアイ」~~~~~
ひと。かねて用きの家根よよのま〜遊の人〜
さるづく

奥居へかかひしせて傍間は近くぬこたあせ傍の
上へ入あぐまが何ふまらびに人集うとこんざら分る

其中〜う〜人物のまらうう〜
犬も發とふら〜
そつやとそつおと〜

「コウぜあしなま他〜
合せんゆ〜
だらう

「そつやとそつおと〜
ちやアつまらぬ〜
やか〜も塗て〜

白で惣身の栗〜
冬風がらう〜
ちび〜

「ちび〜
左次〜
左次〜
左次〜

八巻人三編進下

まよ。ツイ氣がつらるるんご 野言 ちう〜ぬりねくとまふ

まよ入。ごろうヨ塗ごあが 難 船のころ掃ら 駐葉

子屋の斗皮ごろう 頭武 行とうの二の錠六九揚の

あ薩とも見へろう バ ちだの白糸と見えるとぬんが

落らうらちだのまねと刃とら 川童 が天旱でも

まね入る且びりが モ ちびろうロアがわ

まてりてろ 掃番らう お てつらめ入ら且らごろう 卑く

飛びが 左 文 左 左 文 丹 たるく〜の お ねいしてド

間うきもまき お ねいしてド たるく〜の お ねいしてド

ちう〜ぬりねくとまふ お ねいしてド たるく〜の お ねいしてド

まよ入。ごろうヨ塗ごあが 難 船のころ掃ら 駐葉

子屋の斗皮ごろう 頭武 行とうの二の錠六九揚の

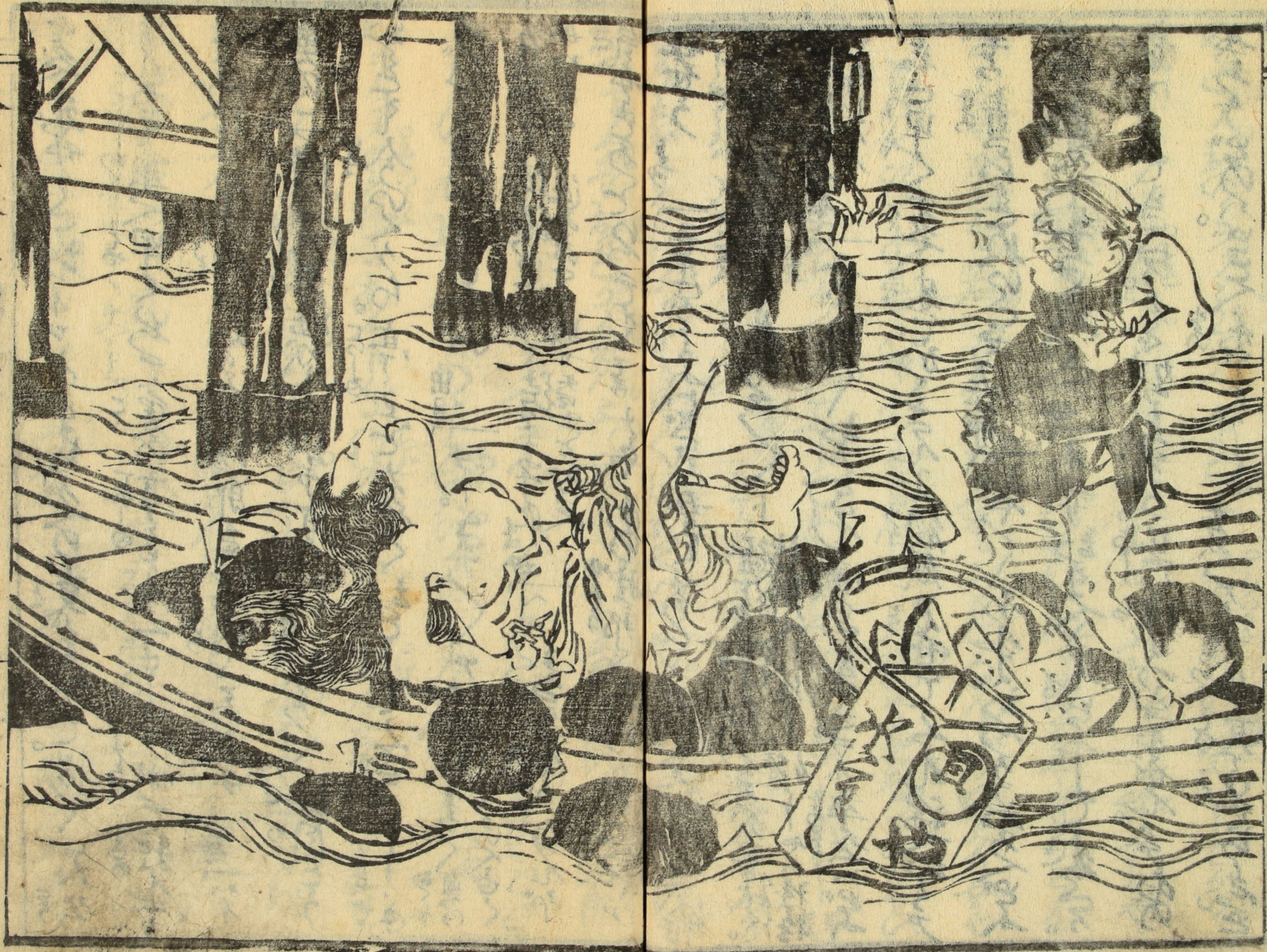
あ薩とも見へろう バ ちだの白糸と見えるとぬんが

落らうらちだのまねと刃とら 川童 が天旱でも

まね入る且びりが モ ちびろうロアがわ

まてりてろ 掃番らう お てつらめ入ら且らごろう 卑く

飛びが 左 文 左 左 文 丹 たるく〜の お ねいしてド



水戸の地

水戸の地

十五

ちりも早ふぐと左次「ライあつた今世は了

行て連てくうら。モウをふう左次「ライあつた今世は了

ライ吞公眼公ふ左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

仕方が後左次「ライ内のあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

春七「さきさきは遇つ押入て左次「ライあつた今世は了

八笑人三編

十七

おどろかす飛んぶのど。見てもさうらうに商「えいど龍宮の

奴もさうさやア。おどろかす女ののう。卒「さうさやア」

飛込のど見てもさうらう。おどろかすおどろかすおどろかす。

方はぬく落しおんぶらう。そごでさるるまづー中らう。

たろくーのあいまうののく秘かろーと。傍ららぬ

つ川のさうらう。商「さうらう」

だろ。まろく落しおんぶらう。おどろかすおどろかす。

極楽へです。おどろかす所へおどろかす。まアおどろかす。

せエト。おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

あつてさう。おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

間遠のさう。おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

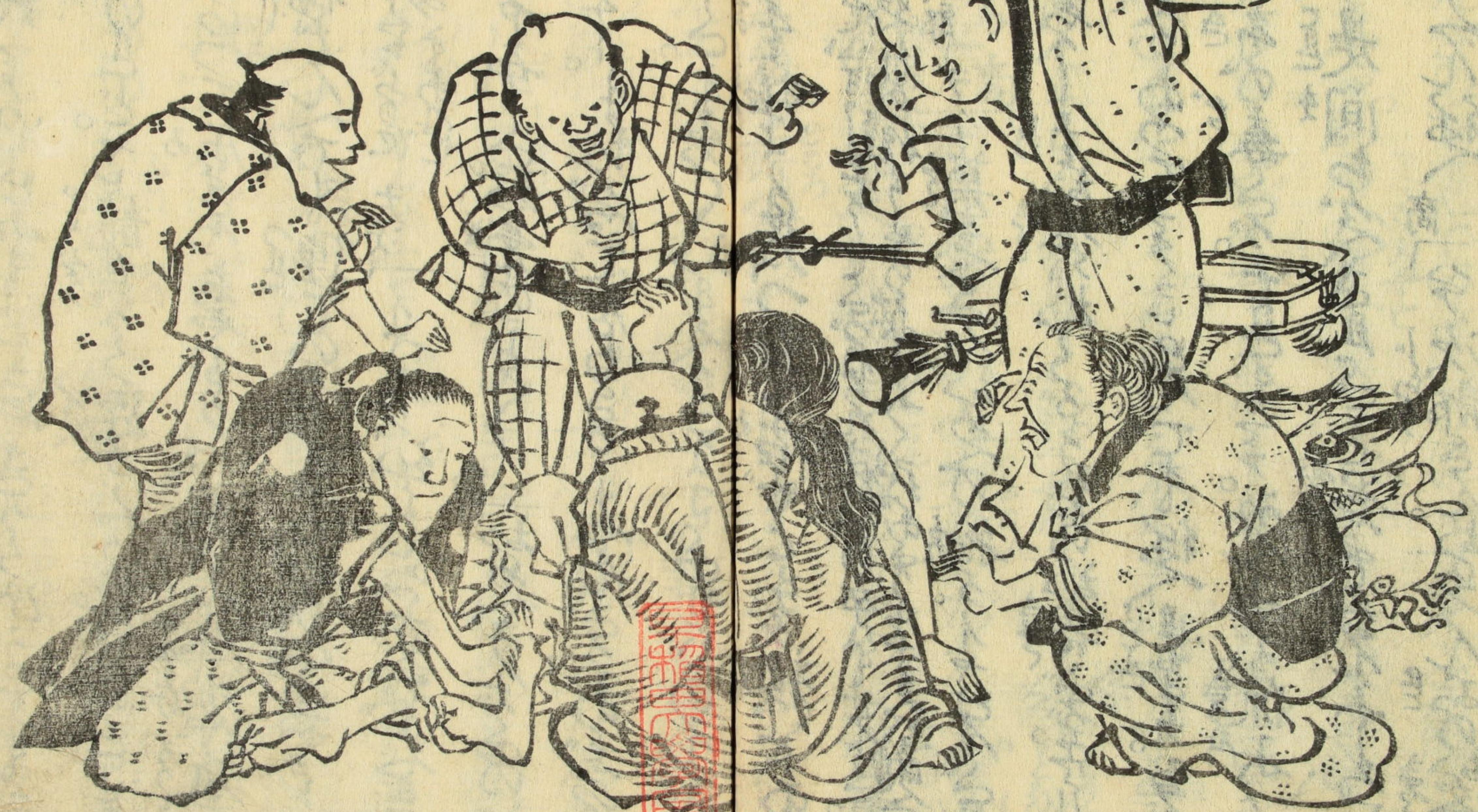
おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

おどろかすおどろかす。おどろかすおどろかす。

八景八三



Red seal impression, likely a collector's or publisher's mark.

八景八三

二十

世にくそまゝにまゐるまゐる。たゞしむらゝびらにひらひらと
 所々^まはまきとけきど。やし龍宮^{りゆうきゆう}うら遠^{とほ}がら。さるの^のかみ
 秘^ひ直^ちまゐるのつて居^ゐるまゐる。今も^いぬ助^{すけ}や爪^{つめ}を
 お後^ごして拵^{しら}だんへでも連^つてのうらうらと。おのつておま^まと
のてあましくうらうらに 左次^さ「イヤモウむしるまゐで。たゞし
左次おまゝにまゐるまゐる
 お世^せ結^{むす}「うらやん。おまゐのどくナ」^高「おまゐるまゐるの連
 かくおまゐる。まぢらるて居^ゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐる
 直^ちまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。

次郎^じまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。
 るせ入^いト^と かつて先^まづうらうらに 左次^さ「サ次郎^じさん。おまゐるまゐる
おまゐるまゐる
 形^か「おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。
 こらちの^ちおまゐるまゐる。高^{たか}「左^さうう。サ^さおまゐるまゐる。
 そまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。
 禪^{ぜん}の^の三^{さん}おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。
 まゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。
 るまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。おまゐるまゐる。

是ののり。サへ、ちぎせくへト ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

卒ハもきやうしやうてきやうな 卒ハもきやうしやうてきやうな。ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

らむ。 らむ。ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「それら菓んさん。 「それら菓んさん。ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「是れ 「是れちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

「次郎 「次郎ちぎせくは腰をつくくうらあか。まじりよき変りかへばよきまがの

八笑入三編 四十一

二五二

けいエがうりてね入尻あしのころ河童かどうお湯ゆがよるふ
 たアあ、是こゝ天宮あまのみやがしとくよの地ぢ口ぐちがおり達たちめがやめ入
 左次さしエべらぶらうめエ。あやまが物ものをうらふ。おとああ大おほく
 うせせぞ。いましく卒「そ」と定さだ順のりえんが容よう解げと波なみ
 たら物ものが船中せんちゆう落おちやこといふ定さだ順のりえんが左次さしエ
 氣き屋やよきておけいあてまのちけいまる晒ひ着ぎたうりうら
 べつら。モウくあうけあやまが物ものをうらふ。あやまの夢ゆめ
 後のち入い卒す「はあやまがよろアあ真まていふはるらう」アあ「アあ」
 多く下物したものたうりるるへいひまが。いさけ筋すぢのきんてい。

こまじま好あまがうらへとてま編のくト倒のてや
 を渡わたせのうらうらとて。まのたあひまの。卒すハあまのひの。まのま
 じり。まのうらうらとて。まのたあひまの。卒すハあまのひの。まのま
 大おほく。まのうらうらとて。まのたあひまの。卒すハあまのひの。まのま
 ぬていひらうとて。まのたあひまの。卒すハあまのひの。まのま
 かけとて。まのたあひまの。卒すハあまのひの。まのま
 るか池いけのまの。まのたあひまの。卒すハあまのひの。まのま
 編ひ目めま
 入い也や飛ひの

花はな八笑人三編追加下巻終



八笑人三編追加下巻終

三十三

牛島土産

全三冊

瀧亭鯉丈作
溪雨英泉画

長恨秋物語

全傳四冊

驛亭駒人
瀧亭鯉丈
楚滿山人
東里山人
合作

文政七稔
甲申陽春
葉販冊子

江戸書賈

雙鶴堂鶴屋金助
青林堂越前屋長次郎

文永堂大島屋傳右門

五十六

